

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200067		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら当代島(1階)		
所在地	千葉県浦安市当代島2-22-29		
自己評価作成日	平成23年10月15日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階
訪問調査日	平成23年12月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様一人一人に合わせた毎日の生活の流れを大切に、状況や状態に合わせた日々の日課を常に考えるようにしています。ご入居者様と職員が一緒に買い物へ出かけたり調理をしたりすることで、個別の支援を考え、できないことに関してはさりげなくお手伝いができるようにしています。日々の生活の中で近隣の個人商店へ積極的に買い物に行くなどして、いつまでも地域とのつながりを持ってよ様に支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域との交流を深める」をホームの年間目標として掲げている。今年度も毎日の散歩や近隣スーパーへの買い物を通じ、地域住民の方の認識も深まってきている。日々の支援では、利用者が自宅にいる時と同じ生活が送れるようにを支援の柱とし、馴染みの店や場所に外出に出かけたり、今年度は家族も交えて温泉旅行に出かけるなど、利用者の生活の幅を広げた取り組みも充実している。今後に向けては、職員の知識の向上や地域とのつながりに関して互いにメリットのある交流の充実等、さらなる質の向上に向け取り組む姿勢を確認できた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今期は地域住民との交流を目標に掲げながら、管理者・職員はご利用者様のサービスに繋がるように地域にねづいた活動を心がけている。	「地域との交流を深める」を今年度の年間目標に掲げ、年間目標達成に向けた「月次運営目標」を各ユニットごと作成している。各月の目標及び前月の取り組み状況は、全体会議において全職員に周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃の地域商店での買い物、散歩での挨拶を積極的に行っている。日々の積み重ねにより、少しずつ顔馴染みになり、交流を図ることができている。又、地域のイベントにも積極的に参加するようにしている。	地域とのつきあいでは、毎日の買い物や散歩を通じ、顔なじみの関係を築いているほか、地域行事にも積極的に参加するようにしている。地域住民からの認識も徐々に深まっており、地域に密着した運営が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方たちを運営推進会議に招き、認知症に対する理解を深めるようにしている。ホームより積極的に外へ出向き、近隣の方への挨拶を大切にしているが、まだまだ理解はされていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では年間に決められた議題を基に、取り組みや活動報告を行っており、自由な意見交換の場を設けている。職員には議事録を見せて結果を報告しサービスに繋がるように努力している。	運営推進会議には、市の介護保険課、民生委員、地域包括支援センター、家族などが参加し、2カ月に一度定期的に実施している。会議では、運営目標の説明や虐待防止関連、感染症予防、外部評価結果報告等、毎回テーマに沿って計画的に進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各関係者の方に運営推進会議に参加して頂いた時や、困った事や分からない事等が起きた際は、その都度連絡を取り関係を築いている。	市の担当課との連携では、運営推進会議に参加頂き、意見交換を行うほか、震災時にはホームの状況を気にかけ、顔を見せに来てくれるなど、協力関係が築けている事が窺えた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや研修等で職員一人ひとりが理解した上で対応にあたっている。住居においては、非常口以外施錠することなく、自由に過ごして頂いている。又、個々の周辺症状にあった対応を心がけている。	身体拘束の廃止に向け、ホーム内において「身体拘束廃止」研修を実施している。日中、ホームの玄関は開放しており、鍵の施錠も含め、現状身体拘束につながる事例は発生していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや研修等で職員一人ひとりが理解した上で対応にあたっている。職員同士お互いに気づいた点を注意し合い、ご利用者においては身体観察等行い異常がないか最前の注意を払っている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して理解する場もあったり、又実際に成年後見人制度を利用されているご利用者の方がいる事で、表面的には分かっているが、きちんと全職員が理解している訳ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は管理者が、ご利用者・ご家族に対して、契約についての説明を規定通りに実施し、質問や疑問等については解消されるように丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱が設置されている。又、面会時等の機会の場を大切にしながらとのコミュニケーションの場を大切にしている。ご利用者やご家族の要望は、全体会議やユニット会議で情報の共有がされており、推進会議でも提案されている	ホーム内外の苦情窓口を重要事項説明書に明記し、契約時に家族に説明している。また、年2回家族交流会を開き、家族からの意見を収集しているほか、面会を通じ家族からの意見を伺い、表出された意見は、会議で話し合い、サービスに反映できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回実施される全体会議・ユニット会議において、意見交換や社内全体の情報伝達が行われ、職員の提案を管理者・リーダーが取り上げ、ご利用者の日々の生活向上に向け取り入れられている。	職員からの意見は、毎月の全体会議及びユニット会議時に意見を収集している。また、年4回、リーダー、ホーム長により各職員が記入する目標管理シートに沿って面接を行い、職員個々の意見を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートというものを設けており、目標を持って仕事ができるような環境を作っている。個々の目標に合わせた設定ができるようになっており、管理者・リーダーはそれぞれの職員に合わせた助言や指導を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社での研修の機会は計画的に実施され、施設内研修も年間を通して実施されているが、施設外研修の参加は自主的希望だが参加希望が少ないのが現状である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内でのネットワークは築きつつあるが、社内外での同業者との交流はない。しかし、実習生を受け入れを行っているので、当施設を理解する機会にはなってきている。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居初期面談だけでなく、日々生活していく中でご利用者からの要望に沿えるよう工夫や改善等をし、安心して日常生活を過ごして頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	要望に応じられるよう、相談を受けた時の為の情報や知識を持ち対応にあたっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントの他に、管理者・計画作成担当者が中心となり、ご利用者・ご家族と面談をして話を伺い、要望に沿えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、一緒に家事活動等を行う事で、ご利用者も誰かの役に立っているという認識を持ってもらうよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が互いに良い関係を持てるよう、話せる機会(外食・旅行を共にする。)を設けている。また、ご利用者の日々の様子を手紙や電話等で密に報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者の希望やご家族の了解のもと、友人等ご利用者の馴染みの人に来て頂けるようにはしているが、ご家族以外で訪問される人はほとんどいない。	ホーム入居後においてもこれまでの関係が継続できるように、昔住んでいた近隣のお店に出かけたり、親戚のお店への外出、利用者の要望に応じ個別で行ってみたい場所にお連れするなど、関係継続の支援を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の様子や会話の中から、お互いの関係の把握に努め、席の場所や行事活動等グループ分け等も考慮している。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されたご家族はまだいないが、入院されたご利用者に対しては、定期的にご家族と連絡をとり、様子を伺ったり、職員がお見舞いに足を運ばせて頂いたりした。また、不安等あった際にはフォローし対応にあた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートを活用し、ご利用者のニーズ把握に努めている。が十分な情報が収集出来ていないのが現状である。生活リズムを変えないように時間軸に沿った支援提供に努めている。	利用者の思いや意向に関しては日常会話からの聞き取りのほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて一人ひとりの課題を抽出し、利用者の現状に即したケアプランが作成できるように取り組んでいる。	ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、一人ひとりの課題抽出後、課題を分析し、分析内容に基づき担当者会議において職員からの意見を収集する仕組みが機能していく事に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得た利用者情報シートを基にコミュニケーションを図るようにし、そのコミュニケーションからまた新たな情報を得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での言葉や行動を観察し、心理状態や身体の状態把握に努めている。又、ご本人の希望に合わせたペースで生活出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の面会時又は電話の際、ユニット会議、ご本人との会話の中から意見や要望を聞き、一人ひとりの個別の特徴に合わせて介護計画を作成している。	ケアプラン作成後は家族に説明し同意を得ている。職員からの意見に関しては、担当者会議を開き意見を収集し、総合的な意見を踏まえケアプランを作成している。また、毎月モニタリングを行い、達成状況を評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日々の様子を記録し、気づき等あった場合はユニット日誌やユニット会議の場で情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の社会資源を個々のニーズに対応した支援が利用出来ていないので、活用していきたいように実施していきたい。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご利用者個々の意向と必要性に応じて利用すべき地域資源だが、生活の中で活かしきれていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一回身心の状況を報告し、緊急時には連絡し指示を仰いでいる。ご家族には毎月往診時の結果を手紙にて報告している。	ホーム提携先医療機関による往診が2週間に一度あるほか、週に一度訪問看護ステーションの回診もある。往診医とは24時間連携が可能で、緊急時迅速に対応できる体制を築いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問により、ご利用者の体調管理をしている。看護職へご利用者の状態を報告し、必要によっては、助言や指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は出来るだけ、ご家族了承のものと同席させて頂いている。ご家族との連絡を密に行い病院での様子を把握できるようにしている。必要に応じて病院関係者の方と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針については支援方法等の話し合いはないので、今後に向けて対応を考えていく必要がある。	重度化や終末期に向けての方針は、契約時に「重度化した場合の対応に関わる指針」を基に説明し、「医療連携体制加算同意書」を交わしている。ホームとして取り組めることを契約時に説明し、早い段階から方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にマニュアルを基に、振り返る場を作っている。が発生し皆がきちんとした対応ができるかと言ったら、不十分な状態である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施し、訓練によって消防署と連携しあつて訓練を実施している。近隣の方の協力体制作りはまだまだ力不足である。	災害時に備えた防災訓練を年間2回実施している。今年度は避難・消火・通報訓練を消防署立会いのもと実施している。近隣の方との協力体制に関しては今後体制を強化していくこととしている。	

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライドを傷つけない言葉かけを心がけ、尊敬の意をもって対応するよう努めている。個人記録の扱いは慎重にし、他者の目に触れないように事務室にて記録を記入している。	毎月の会議や研修を通じ、利用者に対する声かけの振り返りを行うなど、不適切な対応につながっていないか職員間で確認できる機会を設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定して頂くまでの支援にはまだ至っていないが、日々の生活の中でできるだけ自分で決めてもらえるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望を尊重し、無理に参加をして頂く事はしないが、役割をもっているものに関しては、理解してもらえるような言葉かけを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族の方と一緒に美容院へ行かれる方もいるが、ほとんどの方が、職員に希望を伝えたりして、近所の馴染みになった美容院等へ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備に関しては、野菜を切る事が好きな人、盛り付けが上手な人、テーブルセッティングが上手な人と一人ひとり役割をもって食事作りに参加しており、食後も食器洗い、食器拭き等分担して行っている。	食事準備では利用者の参加を促し職員と一緒に準備に関わることができるように支援している。食材の買い物も毎日、近隣のスーパーまで職員と一緒に出かけ、利用者に食材を選んでもらうなど、利用者が主体的に関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重管理を毎入浴時実施、食事量・水分量の記録を行っている。また、ご利用者の持病に考慮し、量や形態また禁物にも対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に、ご利用者に口腔ケアの言葉かけを行い、必要に応じて介入している。		

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりに沿った排泄対応を行っているが、自己排泄するご利用者に至ってはきちんとした介入が出来ていない事も課題である。	利用者一人ひとりの排泄状況は「生活リズムパターンシート」に記入し職員間で情報を共有している。排泄に関しては、定時の声かけや誘導によりトイレで排せつできるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を多く含む献立の工夫をしたり、毎日乳製品の摂取、適度な運動をするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個々の体調面に合わせながら入浴数を調整している。リラックスして入浴できるように、個々に合った誘い方を行い、入浴中の一対一でのコミュニケーションの場を大切にしている。	利用者一人ひとりの入浴日はある程度決まっているが、利用者の体調や要望等を考慮して入浴できるように支援している。また、家族からの要望を踏まえ、入浴回数を増やすなど、家族からの意向も考慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	荷中の活動量や体調を観察し、疲れが見られたり、疲れやすい方には休息を促したり、ご利用者の方の生活リズムが崩れないように声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医と往診時連携をし、ご利用者の状態を把握し不必要な薬があれば中止にし、状況に合わせて柔軟に対応している。時には訪問看護師、薬剤師の方からも助言や指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者一人ひとりのニーズを引き出すように努めているが、アセスメントが十分に出来ておらず、まだまだ十分な支援に至っていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を取り入れての外出支援には至っていないが、毎日の食材の買い出しや散歩を通して、一人一日一回以上の外出に努めている。又、ご家族と定期的に外出される方や、対応が難しい方は職員と個別に行きたい所へ外出する支援も行っている。	毎日の食材の買い物や散歩のほか、年間行事計画の中に外出計画を立てている。今年度は温泉旅行も実施し、利用者も楽しいひと時を過ごす事ができた。日常的に外へ出かける機会が多く、戸外での活動も充実している。	

グループホームきらら当代島(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者一人ひとり、個人預り金としてホームにて管理している。ご利用者の希望があれば買い物に行き、職員付き添いのもとご本人に支払って頂く場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者の自室に電話が置いてある方もいるが、ご利用者の希望があれば対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季にあった花や装飾等を飾ったり、リビングで流れる音楽もご利用者が馴染みある、音や歌をかけるようにしている。	リビングには季節に合った花を飾ったり、装飾も華美になりすぎないように配慮している。ソファやテーブルの位置に関しても利用者が居心地良く過ごせるように、配置に関しても工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを一ヶ所に設置せず、一人ひとりの空間を持つ事が出来るように配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の方が使い慣れた家具を置き、以前の生活が継続できるような環境づくりを図っている。また、ADL等の低下時にはご家族と相談し福祉用具を取り入れ、不自由なく暮らせるように対応している。	居室内には利用者がこれまで使い慣れた家具や馴染みの物の持ち込みを可能としている。自宅の部屋のように使用できるように家具等の配置も利用者や家族の要望を踏まえ、居心地良く過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	障害になる物はユニット内には置かず、ご利用者が不自由なく過ごすことができるように対応に努めている。また、常にリスクを考え対応にあたるようにしている。		